

自分の知を成長させよう 良いい子が山ほどいる学校 **学習指導だより**
 令和元年5月8日 第4号
ただ今勉強中
 馬頭中学校学習指導部
 「ただ今勉強中」は「学校や家庭での毎日の学習を意識化・習慣化する目的」で名付けました

令和初の定期テスト～1学期中間テスト近づく！

1学期中間テストは5/15(水)、16(木)です

テストまでとても大切な7日間になります。万全なテスト対策をしましょう

学	期日	校時	1年	2年	3年	備考
1 学 期	5/15 (水)	1	国語	社会	数学	◇範囲表配布 5/1(水) ◇部活動中止期間 5/13(月)～5/15(水)
		2	社会	数学	理科	
		3	数学	理科	英語	
	5/16 (木)	1	理科	英語	国語	◇成績表配布 5/23(木)の予定
		2	英語	国語	社会	

学習に生かせるかも！～作新学院硬式野球部の強さを考える

～選手たちの行いと小針崇宏監督から強さの秘訣を考える

みなさんご存じの作新学院硬式野球部は強いですね。今回の県の春の大会では負けてしまいましたが、3年前の夏の甲子園大会では全国制覇を成し遂げましたね。現西武ライオンズの今井投手を要しての戦いぶりは立派でしたね。

今回の「学習指導だより」では、「なぜ作新野球部は強いのか？」
 新聞記事などの監督のインタビューから考えてみました。

35歳の小針監督は母校作新学院を率い、就任10年で3年前の夏の甲子園全国制覇を成し遂げました。夏の甲子園優勝決定後のインタビューで小針監督は、「**自分のことより、1年1年チームの力を引き出すことだけを考えてきた。選手たちの成長に感激した。**」と語り、その両目は赤かったそうです。小針監督は試合をするたびに強くなる選手たちに、「**支えてくれる人たちへ感謝する気持ちを持たせたことと、生活態度をきちんとさせただけです。**」と答えました。



小針監督(ネットから)



小針監督が就任することが決まったときの作新学院は、30年近く夏の甲子園出場を果たせずにいた低迷期。「何かを変えなくてはいけなかったが、何を变えていいのかわからなかった。」小針監督は選手と一緒にグラウンドを整備し、同じ練習メニューをこなす中で選手との距離を縮めました。しばらくして問題点が見えてきたといいます。練習に取り組む姿勢や意識の低さ、レギュラーと控え選手との深い溝。いずれも自身の現役時代からある負の遺産だった。しかしそこからは妥協はしなかったそうです。練習中に気を抜いたプレーや隙を見せれば、即座にグラウンドから選手を出しました。「やらされる練習では意味がない。」と選手とのミーティングを増やしたそうです。短期間で技術が簡単に向上するわけではない。「できなかった小さなことをできるようにしただけだ。」と監督は言います。短期間で甲子園出場の切符を手にした選手たちは、「生活態度をきちんとすることの大切さ」を理解するようになりました。たとえそれがレギュラーの選手であっても、小さなことをおろそかにし、ルールが守れない人は野球が上手でも試合には出さなかったそうです。



甲子園を「大きな花」と例えるなら、生活態度・練習は「根っこ」だと考え、根っこがきちんとしていればいつでも花を咲かせることができるけれど、根っこがきちんとしていなければ、花は咲かないと考えたのです。

また小針監督自身も素晴らしいです。下野新聞によれば、「小針監督は甲子園で敗れるたびに課題を持ち帰り、チーム作りに生かした。キャリアを積んで多くの指導者と触れ合うことで人間的な幅が広がった」という。甲子園決勝の前夜、選手たちには「お前なら、いつも通りやれば勝てる。」とだけ言ったそうです。選手は、県大会から変わらない攻めの野球で栄冠をつかみました。選手たちはそれに応え、全国優勝という大輪の花を咲かせたのです。



監督が「レギュラーにしない人」として次の3つのことを挙げている。

- ①小さなことを守れない人
- ②下積み(練習)や人の嫌がること(雑用)をしない人
- ③レギュラー以外の部員のことが考えられない人

2年前に夏の甲子園大会全国制覇というなかなか出来ない偉業を果たしましたが、次のようなことではないでしょうか。

- ・野球以前に、毎日の生活(態度)をしっかりおくことが大切であるということ。
- ・しかも当たり前のことを、当たり前やる。だれでも生活態度をしっかり改めれば、人生の花を咲かせることができること。
- ・小さなことをしっかりやれば努力はうそをつかないということ。人間はとかく周りのことを考えなかったりということがあるので、次の行動を考えて行動することが大切であること。

日頃の積み重ねで、今後の未来は変えられることです。また種目は違いますが、競泳の萩野公介選手がリオオリンピックで世界一の証の金メダルを取ったことも、この栃木の一スイミングクラブでの練習が始まりだと聞きます。ここ栃木のグラウンドやプールから、全国一位や世界一のアスリートが出たことは郷土の誇りですね。

馬頭中のみなさん、この先どんな逆境があっても、作新学院の選手(たち)を見本にくじけずに、自主性や向上心を持って生活をするべきです。まずは今度の中間テスト、自分に妥協せずがんばってみるべきではないですか。みなさんの馬頭中での学校生活は、毎日が青春修行です。頑張っていきましょう。

【参考資料】 下野新聞・毎日新聞 他